

令和4年度第1回岡崎市観光基本計画推進委員会 会議録

1 日 時 令和4年9月29日（木）13時56分～15時53分

2 場 所 岡崎市役所東庁舎6階601号室

3 委員（敬称略）

出席者：高橋一夫、山中賢一、八木則行、竹内博剛、西尾孝志、野村顕弘、
石田浩美、中林菜穂子、杉山琢士、川辺泰正

欠席者：新家智明、小川敦司、長瀬正明

4 オブザーバー（敬称略）

出席者：榊原仁、靱井泰晴

5 事務局

経済振興部長：鈴木洋人、経済振興部技術担当部長：鈴木康弘

観光推進課長：加藤健一郎、同副課長：鈴木克直

同課観光推進係長：清水里美、同主任主査：杉浦美穂

6 議題

- (1) 委員長及び職務代理の選任について
- (2) 令和4年度版岡崎市観光白書について
- (3) 岡崎市観光基本計画アクションプランの進捗状況について
- (4) 大河ドラマ活用施策について
- (5) 新たな観光基本計画について

7 傍聴者

なし

8 議事要旨

—開会—

議題1 委員長及び職務代理の選任について

事務局から次のとおり説明。

- ・岡崎市観光基本計画推進委員会要綱第2条により委員長を互選し、第2条の3により委員長に職務代理を指名していただきたい。

【委員の意見】

- 継続性と実績を踏まえ、委員長は高橋委員にお願いしたい。

- ・特に異議なく、委員長は高橋委員に決定した。

委員長) 職務代理は、これまでも有意義な発言で委員会をリードしていただいた山中委員にお願いしたい。

議題2 令和4年度版岡崎市観光白書について 議題3 岡崎市観光基本計画アクションプランの進捗状況について (一括審議)

事務局から次のとおり説明。

- ・観光白書の内容を全体的に見ると、令和2年度に新型コロナで大きく落ち込んだ観光需要が令和3年度はある程度回復した。ただし、インバウンドはほぼ消滅したままであった。

- ・コロナ禍での観光の特徴として、団体でなく少人数での観光が主流。移動手段は乗用車が多く使われた。イベントは令和2年度に続き中止や縮小を余儀なくされた。

- ・観光白書にアクションプランの進捗状況も掲載している。アクションプランの計画期間は令和2年度までだが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い改定作業を保留し、臨時的な「ウィズ・コロナ期観光戦略」の内容を反映しながら継続している。

- ・アクションプランの目標指標で、最重要指標の経済効果と目標2の観光入込客数及び目標3の宿泊者数は、新型コロナの影響による人の動きの停滞、外出自粛、イベントの中止や縮小のため達成できなかった。目標指標4の来訪者満足度は、アクションプラン策定以降、初めて目標値を上回った。地域一体となって観光情報や観光資源の充実に努めてきた結果と考えている。

- ・観光白書のまとめとして、今後は新型コロナの動向を注視しつつ、SDGsの理念に基づく持続可能な観光の実現に向け、市民や観光関連事業者とともに観光の意義を再認識し、地域活性化の好循環を創出していく必要がある。また2023年の大河ドラマ「どうする家康」の放送を契機とした観光消費の回復や、大河ドラマ後を見据えたニューツーリズムの充実に努めていく必要があるとしている。

【委員の意見等】

○宿泊施設を経営しているが、昨年度は白書の数字より厳しく、ビジネス客が回復した実感もない。以前はビジネス客が多かったが、経済の様式が変わり観光客の割合が高まっている。

○緊急事態宣言が発出された昨年8月中旬～10月頃は自社施設への来訪者が激減したが、今年は大きく伸びている。来訪者の増加はありがたいが人手不足など不安もある。

○旅行会社は安定的に企画が組めるようで、自社からの営業活動も遠方まで行

き積極的に進めている。個人客の増加を感じるし、河川敷に人が集まり、よい雰囲気になっている。

○観光施設とはいえ宗教法人にはコロナ関係の補助金がなく、文化財整備の費用が不足気味である。

○自分の寺への来訪は、以前は歴史好きの男性が多かったが、最近は御朱印集めや東海オンエア目当ての女性も来られる。バスよりも個人が多い。岡崎の北部方面は岡崎サービスエリア位しか土産店がなく、大河ドラマ放送に向けて寺に売店が設置できければ観光施設として充実する。

○金融関係者としては、この地区は全般的にはコロナのダメージが少なかったと感じているが、業種にもより、飲食関係は苦労されている。

○大河ドラマを契機に地元の事業者に儲けてほしい。新しい商品の開発・PRが重要だ。大阪の展覧会に出展した伝統工芸関係者も「どうする家康」を前面に出して好評である。

○豊田市ほか近隣市も松平・徳川に対する熱い思いがあり、連携しながらやるべきだ。商工会議所も観光協会と一緒に岡崎・西尾・蒲郡の食事処を巡るスタンプラリーをやっている。

○市内を観光するときは市のサイトやSNSでレストランやカフェなどの情報を得るが、情報がバラバラにある。統一して閲覧できるものがあるとよい。

委員長) 情報を集約して掲載すると消費者ニーズに合った発信になるが、リスク対応を行う人員増等も必要なため悩んでいる観光協会が多い。

○ここ数年、乙川周辺と籠田公園は賑わい活気がある。グランピング、川下り、SUPなどの体験とホテルの風呂や食事を組み合わせた企画があれば小中学生を持つ家庭に喜ばれると思う。

○お寺周辺に豊川稲荷のように土産店やグルメがあるとよい。友人を市内に案内するが、八丁味噌蔵や道の駅藤川宿の他には土産店がほとんどない。以前海外の友人も来たが、お金を消費したい意欲はあるのにお金を落とす場所がない。

委員長) 従来から観光地と呼ばれている京都・奈良などは事業者が集積し観光消費を促す仕組みができているが、岡崎ではそういった仕組みへの積極的な投資は逡巡される傾向にある。それを乗り越えていくと消費者も楽しめて地元も観光消費で潤う形になっていく。

○純粋な歴史観光でも思い出になるお土産やグルメがあると一層満足感が得られる。岡崎の農産物の加工品などせっかく来たからと思うものをもっとあるとよい。

○観光白書の来訪者満足度のデータでは、市内交通が不満の割合が増えている。岡崎は家康関連のよい場所の交通アクセスがよくない。マイカー主流の個人型観光では道が狭く駐車場が悩みの場合が多い。交通改善が岡崎の重要な課題だ。

議題4 大河ドラマ活用施策について

事務局から次のとおり説明。

- ・市役所だけでなく商工会議所ほか岡崎全体で様々な大河ドラマ活用の動きがある。
- ・観光基本計画アクションプランは令和2年度末で終了だがコロナのため次期の策定を見合わせ中である。コロナ対策や大河ドラマ活用の短期的なプロジェクトを挟み新観光基本計画に移行する。

委員長) 時間の関係もあり、議題5の新観光基本計画も関連性があるとのことなので、続けて事務局説明の後に各委員の意見を伺いたい。

議題5 新たな観光基本計画について

事務局から次のとおり説明。

- ・令和5年度末までに策定、公表の予定。今後本委員会に素案を提示する。
- ・現在は素案の手前の基本的な考え方の整理。
- ・中間見直しを設定せず、随時見直しをする。
- ・観光自体を目的とせず、地域経済活性化と社会課題解決の手段と捉える。

【委員の意見等】

○岡崎は、文化も食も歴史も高いレベルで様々なものがある。自分が仕事で顧客企業と話をする際、「自社には強みがない」と言われる企業でも高い技術を有することがあり、強みに気づいていない。岡崎も同様ではないか。岡崎に住んでいると当たり前のモノやコトでも、他所の人にすれば珍しく特徴がある場合が多いのではないか。

○若者の流入促進のために東海オンエアを活用するのはよい戦略だと思うが、いかにお金を落としてもらうかが重要だ。若者が買いたい商品を整備する必要がある。一方で歴史やグルメ目当ての来訪が大河ドラマを契機に一層増加すると思うが、それらの方に満足していただけるような宿泊設備や商品、収益が出るコンテンツも充実すべきと思う。

○大河ドラマに向けてお客様に満足いただけるよう食事のメニューも開発中である。すでに今年のゴールデンウィークやお盆時期の顧客アンケートには「どうする家康で頑張ってください」とか、「どうする家康があるので先走って来ました」などと書かれており期待を感じる。

○新計画策定には、大河ドラマを契機に来られる方の意見を活用できるとよい。来年は観光に関しても大事な年になると思う。

委員長) 事業者の方は経営情報として出しづらいものもあると思うが、市へマーケティング結果を提供いただければ、地域全体で集客する機運も高まってくる。温泉地で各旅館の持っている顧客情報を共有化してマーケティングを行い成功しているケースもある。調査業者を活用してオンラインでデータを集めるのも大事だが、生の声が地域にある場合はうまくいっているところが多い。

○岡崎市は静岡市、浜松市と比較し家康ゆかりの地が非常に多いが、市民にあまり知られておらず、今後さらに住宅化が進行するとまったく面影がなくなってしまうのではないかと心配。市民一人一人が案内できるような地図などを作ってほしい。「岡崎 史跡と文化財めぐり」の本もよいが、合併前の額田町の表記になっている箇所があるのは残念だ。訂正紙を差し込むなどの対応をしてほしい。安城市は家康ゆかりの地に関して立派な資料を作っているが岡崎市にはない。大河ドラマの役柄は岡崎生まれの方が多く、ゆかりの地へ行きたい方が出てくると思うので案内資料を作ってほしい。

委員長)今の時代は必ずしも本の形にする必要はなく、オンライン出版物にするなど多種多様な手法があり、費用がかかるものばかりでもない。重要な資産があるなら何らかの形になり家康ファンが増えることを望みたい。

○新観光基本計画について、7年という長い計画期間の中で環境に合わせて見直しをするのであれば、「考え続ける計画」というより「ローリング」と表現した方がわかりやすいのではないかと心配。

【オブザーバーの意見等】

○大樹寺について、案内板が駐車場も含めてあるとよい。コロナで車移動の人が多くなっており、駐車場から歩く場合も道に迷うと聞いている。

○大河ドラマ関係では愛知県、市町村及び観光団体等で推進協議会を設立しており、来年1月にJR名古屋駅のコンコース内にPRコーナーを作る。また、同協議会で作成したロゴを使って土産品を全県的に販売していく予定である。

○新観光基本計画について、市主体で観光を進めようとする予算の制約があり、閉塞感もある。企業や周辺市町と一緒に周遊の仕組みづくりをして進める方が観光振興に繋がる。

委員長)二つの方法がある。一つは事業者に分担金や負担金をお願いし受益者を確定し進めるやり方。もう一つは市が中心になりマーケティングなどを行うとともに事業者のマーケティングの中身も知る方法。観光協会や市からすると予算が民間予算で上積みされる形になる。

○皆さんや事業者の話聞き、具体化していくのが観光協会の責務と思う。できることをひとつずつやっていきたい。DMOとして機能できる準備も進めたい。

—閉会—